

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.09 **FUJI**

第9戦 富士スピードウェイ

2026 年 10 月 10 日 (土)

予選・決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 ト部 和久

予選 11 番手 決勝：21 位

#39 大湯 都史樹

予選 15 番手 決勝：7 位

2026 年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、スポーツランドSUGOで行われた第8戦から約2ヶ月を経て、富士スピードウェイで第9戦・第10戦が行われた。ただ、10月9日(金)の専有走行を前に、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING に思わぬアクシデント

が襲った。38号車のドライバーである阪口晴南が、前日に目の痛みを訴え、急遽病院で診察を受けることに。回復には向かい始めたが、チームは大事をとって参戦を見合わせることを決断した。金曜日になって、急遽チームに帯同を続けていたト部和久が起用されることになった。

QUALIFY 公式予選

10月10日(土) 9:40～10:25 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 ト部和久 1'22.342 / #39 大湯都史樹 1'22.296

突然のドライバー交代のため、ト部は金曜日午前中のセッションの間に急遽シートを製作し、午後の専有走行2回目から走行を開始した。過去にルーキーテストで2回スーパーフォーミュラを経験していたものの、富士スピードウェイでは初走行。「まだ専有走行ですし、緊張というより楽しかったです」と慣れることに集中し、1分23秒336を記録し16番手と、好位置につけてみせた。

一方の大湯都史樹は、「つかみどころを少し見失っています」という。「今回、クルマのコンセプトを少し変えてきています。思っていた手ごたえは感じていないですが、フィードリングは悪くないです」というもの。2回の専有走行を12番手、8番手で終えていた。

迎えた10月10日(土)は、午前9時40分から公式予選が行われた。秋晴れに恵まれ、気温21度/路面温度30度というコンディションのもと始まったQ1のA組には、まずは大湯が出走。アタックを行った。

ただ「手ごたえのなさが響いてしまいました」とタイムを伸ばしきれず、1分22秒296というベストタイムで8番手。総合では15番手につけることになった。

一方、午前9時55分から始まったB組に出走したのは

ト部。初めての予選であり、立川祐路監督も「第10戦をターゲットに、第9戦はまず慣れよう」と送り出したが、Q1から快走をみせる。1分22秒301というベストタイムを記録し5番手につけ、いきなりQ1突破を達成。Q2こそ11番手となったが、初出場で称賛されるべき結果を残した。「いつもどおり臨みましたが、Q1突破は正直驚きました(笑)。Q2はもっとやれたとも思いますが、それは明日への課題にしたいと思います。今やれることを楽しみながらやりたいですね」とト部は予選を振り返った。



RACE

決勝レース

10月10日(土) 15:00~16:03 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 ト部和久 1'25.771 (8L) / #39 大湯都史樹 1'24.779 (38L)



公式予選終了後も富士スピードウェイは晴天に恵まれ、午後3時から行われた第9戦の決勝レースは気温 25 度／路面温度 35 度というコンディションで始まった。

予選後、「決勝は初めてのロングランですし、いろいろな心配はありますが、まずはきちんと噛みあわせることを重視したいです」と語っていたト部が 11 番手、「セット変更で決勝もクルマが変わりますが、ベースを引き上げられるようにしたいですし、チャレンジすることで明日に繋がれば」という大湯が 15 番手からスタートを切った。

オープニングラップでは、ト部は「まわりがオーバーテイクシステムを起動していたのもあってか、悪くはなかったものの順位が落ちてしまいました」とポジションを落とし 13 番手に。一方の大湯は、混戦のなか 15 番手から順位を上げ 12 番手に浮上する。さらに翌周には 2 ポジションアップを果たし、ポイント圏内の 10 番手につけていった。

今回セットアップを変更してきた大湯は、「つかみどころを少し見失って」いる状況で、トップグループほどのパフォーマンスがあるわけではないが、中団の激しいバトルの中でレースを進めていく。第8戦 SUGO から決勝ペースはやや改善されており、大きく順位は落とすことなく戦っていた。

一方で、初めての決勝レースだったト部は、燃料を多く積んでのロングランも初体験。さらに、レース序盤からブレーキが効きづらい症状に悩まされていた。ピットウィンドウオープン後もコース上にステイしていたが、14 周目に #3 山下健太に先行を許してしまう。ただそれでも粘り強い戦いを続け、16 周を終えピットインを行った。しかし、ピットアウト後もブレーキの症状に悩みレース後半はなかなか順位を上げられなかった。ただ今回、ト部のミッションはしっかりと完走し、第 10 戦に繋げることだ。ト部はその目標に向け、

レース後半も 1 周 1 周学びを得ながら、初経験の決勝を戦った。

一方、大湯はレース後半にピットインを引っ張り、フレッシュタイヤで追いつける作戦を選択していた。

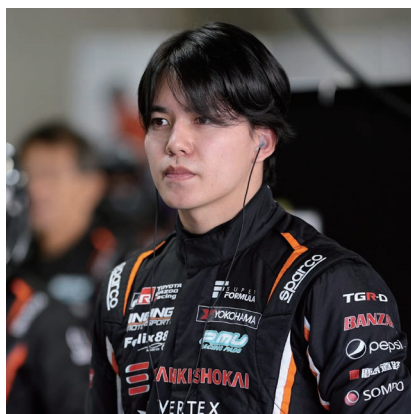
大湯は 40 週のレースの後半にあたる 27 周を終えピットイン。レース終盤の追いつけを期しコースに復帰したが、終盤、ライバルたちのペースの落ち幅が少なく、30 周目に #16 野尻智紀を、33 周目に #7 小林可夢偉、35 周目に #5 牧野任祐をかわし順位を上げポイント圏内に入るも、前を走る #28 小林利徳にはなかなか届かなかった。

それでも SUPER GT のチームメイトである #28 小林に対し最後は意地をみせオーバーテイクし、大湯は 8 位でフィニッシュ。レース後、#22 松下信治のペナルティにより 7 位に繰り上がり、貴重な 3 ポイントを獲得した。

そしてト部は、最後までコースにしっかりと留まり 21 位でフィニッシュ。スーパーフォーミュラでの初レースを終え、翌日の第 10 戦に繋げてみせた。

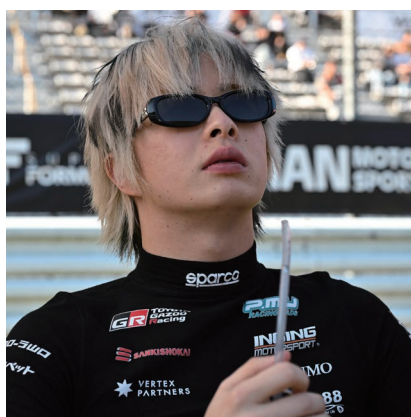


COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 ト部 和久 KAZUHISA URABE

「予選は満足いく走りをしてしようと臨みましたが、Q1 突破は少し驚きました（笑）。Q2 は少しやり切れなかったところがあるので、それは明日にとっておきたいと思います。決勝レースはすごく難しかったですね。自分の問題なのか、車両の問題なのかは分からないのですが、ブレーキがなかなか効かなかったです。スタート前から感じていたのですが、燃料の問題なのかと思っていました。ただ、それ以外にもシートポジションなどまだまだ足りないところがあるので、しっかり悪いところを出して明日に臨みたいです。でも、予選からたくさん勉強ができた一日になりました。クルマの操作自体もかなり覚えることができましたし、第 10 戦でも思いきりいきたいです」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「7 位という結果でしたが、現段階ではベストだったと思います。公式予選から、つかみどころを少し見失っていましたが、レースでもまだ見つけれないままでした。第 8 戦からレースペース改善の兆しはあったので、その雰囲気があったかな、というところですね。戦略では、後半にピットインする作戦を採りましたが、まわりの落ち幅が少なかったこともあり、あまり取り分がなかったです。そこは見直したいですね。いずれにせよ自分のスピードに課題があるので、明日の第 10 戦に向けて見直したいです。ペースがあれば決勝でも良い展開を生めたと思いますし、予選に向けても何かをしなければと思います。今日とは違うレースになるよう考えていきたいです」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「公式予選では、ト部選手が急遽の参戦ながら、予想を上回る走りをみせてくれました。素直に頑張ってくれたと思います。決勝は厳しいものになりましたが、ロングランが初めてですし、今回は走り切ることが目標だったので、良く戦ってくれたのではないのでしょうか。明日に繋げられればと思います。大湯選手は予選でうまくタイムを出せず Q1 敗退となりましたが、決勝では最低限の挽回はできたと思います。ただ満足できる結果ではないので、明日は予選から上位につけてほしいです。また今回、阪口晴南選手を応援してくださる皆さんに走りをお見せできず申し訳ありませんでしたが、回復を優先しました。ご理解と復帰後の引き続きの応援をお願いします！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第9戦富士スピードウェイ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	58'55.883	
2	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	58'59.998	4.115
3	19	Z. オサリバソ	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'00.268	4.385
4	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'10.889	15.006
5	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'13.564	17.681
6	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'17.063	21.180
7	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'27.005	31.122
8	28	小林利徳斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'28.103	32.220
9	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'31.107	35.224
10	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'31.705	35.822
11	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'38.988	43.105
12	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'40.870	44.987
13	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'41.482	45.599
14	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'42.348	46.465
15	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'48.322	52.439
16	9	G. アレジ	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'48.824	52.941
17	97	R. スタネック	ヒル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'50.339	54.456
18	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'51.200	55.317
19	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'22.717+30sec	26.834
20	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'57.859	1'01.976
21	38	ト部和久	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'57.894	1'02.011
22	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'05.404	1'09.521
23	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	39	1:00'09.012	2Laps
以上完走							
50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	29	42'35.639	12Laps	

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	122
2	65	I. オオムラ・フラガ	74
3	1	岩佐歩夢	67.5
4	14	福住仁嶺	63
5	36	坪井翔	43
6	5	牧野任祐	41
7	19	Z. オサリバソ	38
8	39	大湯都史樹	35
9	37	S. フェネストラズ	34.5
10	16	野尻智紀	30.5
11	38	阪口晴南	27
—	38	ト部和久	0

チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	148
2	PONOS NAKAJIMA RACING	80.5
3	VANTELIN TEAM TOM'S	77.5
4	TEAM MUGEN AUTOBACS	77
5	NTT docomo Business ROOKIE	60
6	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	58
7	TEAM IMPUL	35
8	REALIZE KONDO RACING	19
9	DELIGHTWORKS RACING	16
10	ThreeBond Racing	11